



「くまもとアートポリス」は、自然や歴史、風土を生かしながら、後世に残り得る優れた建造物を造り、地域の活性化に資する熊本独自の豊かな生活空間を創造する取り組みとして1988年(昭和63年)に創設し、36年を迎えた。

これまで県民とともに育み、継続してきた「くまもとアートポリス」の取り組みについて広く国内外に発表するとともに、熊本の建築文化の更なる発展を願い、「持続する志」をテーマに「くまもとアートポリス建築展2024」を開催した。

## メインシンポジウム 2024.11.23 Sat.

### 「新しい公共性とは何か」

～若い建築家達の取り組む小さなコミュニティ～

開催場所 | ホテル熊本テルサ

伊東豊雄くまもとアートポリスコミッショナーのレクチャーをはじめ、小さなコミュニティづくりに関わる4名の若手建築家等の事例報告を踏まえ、「新しい公共性とは何か」についてディスカッションを行うシンポジウムを開催した。韓国や台湾からの参加者を含め、国内外から300名を超える方に参加いただき、国際色豊かなシンポジウムとなった。



### 第1部 | 基調講演 これからの公共建築は「みんなの家」である

／くまもとアートポリスコミッショナー 伊東 豊雄

伊東氏は、東日本大震災後に携わった仙台市宮城野区の「みんなの家」の設計を振り返り、「被災者支援の場から、コミュニティを再生するための公共施設へと変わっていった」と説明した。また、平成28年熊本地震では、仮設住宅団地内の集会所や談話室を「みんなの家」として整備し、本当の意味で「みんなの家」が公共建築となったこと、その後は移設、利活用されていることについても言及した。

さらに、戦後に全国の市町村で進められた公民館建設と、「みんなの家」が公共建築となったことを踏まえ、自ら設計を手がけた「みんなの森 ぎふメディアコスモス」(岐阜県)や「茨木市文化・子育て複合施設 おにクル」(大阪府)を例に挙げながら、「これからの公共建築は、公民館本来の精神を継承すべきであり、『みんなの家』はその小さなモデルである」と述べた。



くまもとアートポリスコミッショナー 伊東 豊雄

#### 参加者の声



最近、公共建築の必要性が問われていると感じる機会が増えてきました。そのような中で、公共建築をテーマにした講演はあまりないため、参加しました。この後に行われる交流会では、アートポリスに携わる建築家の皆様のお話を聞けることを楽しみにしています。

[左から]大石 誠志さん、藤村 利輝さん、松本 健成さん(熊本大学大学院)



今回のシンポジウムは、まちづくりや地方の活性化等、とても感動しました。将来は、私も地方のまちづくりをやりたいので、今から勉強を始め、日本を訪問し、様々なことを学びたいです。

[左]林 博揚さん(台湾・成功大学)

「公共性」について多くのアイデアがあり、自分がこれまでに考えていなかった内容でした。特に森田さんの「ゆる」という考え方は、とても感銘を受けました。今後のまちづくりに活かしていきたいです。

[右]鄭 筱融さん(台湾・実践大学)

### 第2部 | 事例報告 小さなコミュニティづくりに関わる若手建築家等による事例

東京、大阪、長崎、長野を拠点として活躍している若手建築家等4名の事例報告では、それぞれが関わるプロジェクトの背景やコンセプト、地域の特性を生かしたデザインへのこだわりなど、多岐にわたるものであった。多方面で注目されているその活動の詳細を知るとともに、建築の新たな可能性を感じさせる内容となった。

#### 民から立ち上がる commons



teco  
金野 千恵

高齢者介護や就労支援などを行う地域共生文化拠点「春日台センター」(神奈川県)は7年の歳月をかけて完成させたプロジェクトである。地域コミュニティの立ち上げを通じた地域課題を拾い上げによって誕生したこの拠点は、年代や特性に関わらず、自由に集まれる場として機能している。

#### 大阪・北加賀屋 C.S.A.コーポ北加賀屋 千鳥文化



ドットアーキテツ  
家成 俊勝

元工場を改修した「コーポ北加賀屋」を拠点に活動している。2009年以降、「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想」によって芸術・文化が集積する創造拠点として再生が始まり、築60年の迷宮のような住宅を複合施設「千鳥文化」へと生まれ変わらせた。食堂やバー、商店などが営まれ、人々が行き交い、地域に溶け込んでいる。

#### 長崎の状況



インターメディア  
佐々木 翔

古民家を改修した交流促進拠点「HOGET(ホゲット)」を皮切りに、用途の決まっていない依頼が増えた。長崎県内には、ほどよい公共性を感じられる民営の施設が増えつつあり、私も地元で島原市が所有する古民家を地域拠点施設「水脈 mio」に改修し、施設運営まで行っている。

#### 「自分たち事」の場づくり



マナビノタネ  
森田 秀之

故・渡辺保史氏による「自分たち事」とは、自分事と他人事の両方を合わせたところにある。「自分たち事」の場をつくるには、自治意識が芽生えるような「コモンプレイス」となることが重要であり、そのためには「ゆるゆる」(緩さ・許せる)をどうデザインするかだと考えている。「コードマーク御代田」はその実践例である。

### 第3部 | ディスカッション 新しい公共性とは何か

伊東氏は「事例報告で共通していたのは公共性というテーマでありながら、民営の施設であり、設計だけでなく実際の活動にも取り組んでいる。私は自治体の仕事にこだわっており困難なことばかりだが、自治体と向き合い、少しでも変えていきたい」と述べ、進行を務めた曾我部氏は、「それぞれの方が目指されていることは比較的共通しており、新しい公共的な場の在り様というのは、一定の形で浮かび上がりつつある」と振り返り、「新しい公共性」について活発なディスカッションが展開された。

また、台湾の参加者から「建築がもつ新しい記憶をつくる力」についての質問があり、「人間には共通の記憶というのがあって、それが建築をつくる原動力になるような気がしている。自分が持っている古い記憶が、新しい記憶に置き換えられていくという時に、初めて居心地の良さに繋がるのではないかと」と伊東氏が語るなど、会場全体で一緒に考えるシンポジウムとなった。



#### ディスカッション登壇者

事例報告の4名/  
金野 千恵、家成 俊勝、佐々木 翔、森田 秀之  
くまもとアートポリスコミッショナー/  
伊東 豊雄  
くまもとアートポリスアドバイザー/  
桂 英昭、末廣 香織、曾我部 昌史



巡回展 —くまもとアートポリス36年とこれから— 2024.11—2025.2

くまもとアートポリス36年間の取り組みについて、大きく4つの時期に分け、各期の主な特色を「公営住宅」、「木造建築」、「学校建築」、「災害対応」と設定し、それに応じたアートポリスプロジェクト建築家へのインタビュー映像やパネル、模型を通して振り返る展覧会を、上通アーケードをはじめ県内各地で巡回展として開催した。

上通会場では、キックオフイベントとして、建築家・乾久美子氏を招いたトークイベント「小さな風景と建築」を、熊本市現代美術館で実施した。

開催場所 | 上通会場 (上通アーケード、熊本市現代美術館) 2024.11.16 Sat.



参加者の声



街の風景としか捉えていなかった建物がアートポリスから生まれたと初めて知って、見入ってしまいました。

松岡 真治さん(会社員)、松岡 美空さん



県外出身ですが、熊本の人たちはアートな建築物の存在をもっと自慢していいと思います。36年も続いているなんて素晴らしい。

八尾 建樹さん(会社員)

その他の巡回先

2024.	11.23 Sat.	メインシンポジウム会場(ホテル熊本テルサ)	
	12.4 Wed. — 12.15 Sun.	熊本地震震災ミュージアムKIOKU	
	12.18 Wed. — 12.24 Tue.	崇城大学	
2025.	1.8 Wed. — 1.27 Mon.	熊本大学五高記念館	
	1.31 Fri. — 2.7 Fri.	熊本高等専門学校八代キャンパス	
	2.12 Wed. — 2.14 Fri.	熊本県立大学	
	2.15 Sat. — 2.28 Fri.	南阿蘇鉄道高森駅・交流施設	

俳優・田中道子氏によるアートポリスプロジェクト建築家へのインタビュー

山本理顕氏、藤森照信氏、赤松佳珠子氏、乾久美子氏に、当時のプロジェクトへの思いやこれからのアートポリスへの期待などについてインタビューを行いました。インタビューは、2022年度に一級建築士試験に合格された俳優の田中道子氏にお願いしました。



参加者の声

社会人になって、人が心地よいと感じる空間造形に興味が出ました。息子には建築家になってもらいたいと思っています。

池上 ゆうさん(会社員)、池上 皓大さん

インタビュー動画はこちら▶



展覧会企画トークイベント 2024.11.16 Sat.

小さな風景と建築

開催場所 | 熊本市現代美術館 ホームギャラリー マリーナ・アブラモヴィッチ (Library for Human Use) 2002年 ©Marina Abramovic  
ジェームズ・タレル (MILK RUN SKY) 2002年  
共 催 | 熊本市現代美術館(公益財団法人熊本市美術文化振興財団)

新八代駅前モニュメント「きらり」や人吉市のみんなの家の設計者で、アートポリス推進賞選考委員を務める乾久美子氏が登壇。生活者によって生み出され、メンテナンスされている風景を「小さな風景」と呼ばれており、そこでの工夫や知恵を建築のデザインに生かすことを考えながら活動されている。そういったものを「コモンズ」と捉え、公共建築に関わられており、自身の作品である「延岡駅前周辺整備プロジェクト」などを事例に講演された。

アートポリスアドバイザーの桂英昭氏を交えたトークセッションでは、公共建築は管理する側が管理しやすい建築を求めがちであるが、本来はそこを使う方々が責任をもって管理し合うべきであり、そういった疑問を主張し続けた建築家という存在があったからこそ、今の公共建築はワークショップなどで利用者の声を聞くことが普通になっていることなどが語られた。



建築家 乾久美子



参加者の声

街と人の両方にコモンズの考え方は大切だと気づかされました。

橋迫 弘平さん(設計事務所)



設計に携わっています。今日は知識が広がって新しい視点を得られました。

中村 安那さん(個人事業主)

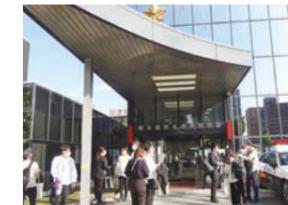
建築ウィーク

数多くの幅広い年代の建築物であふれる熊本県の豊かさを再認識していただくともに、建築文化を国内外に情報発信していくため、11月11日から24日までの期間を「建築ウィーク」と称し、特別見学会、一斉見学を開催した。

2024.11.11 Mon. — 11.24 Sun.

特別見学会

日頃見ることができないアートポリスプロジェクトの施設内部を特別に見学できる見学会を、熊本北警察署(現熊本中央警察署)、宇土市立宇土小学校、熊本県総合防災航空センターの3箇所で開催し、見学者100名が参加した。



熊本北警察署(現熊本中央警察署)



宇土市立宇土小学校



熊本県総合防災航空センター

宇土小学校 参加者の声



雑誌から感じていた印象とは違い、実際の建築の洗練された力強さを感じることができました。

[左から]山下 浩平さん、坂田 愛都さん(熊本大学)



とても貴重な体験をさせていただきました。子どもたちが楽しく過ごしている様子が想像でき、わくわくしました。

[左から]中村 絵美莉さん(福岡大学)、野中 彩花さん(九州大学)、塘口 若菜さん(熊本大学)



ぼくの学校はドアがあるけど、この学校はドアがカーテンになっていた。あと、トイレのかべに丸い穴があいているデザインがよかった。

森山 晴貴さん(小学生)

一斉見学

アートポリス関係施設の施設所有者(管理者)や設計者等が主催者となり「建築ウィーク」期間中、見学者を受け入れる見学会が開催された。17施設で開催され、見学者980名が参加した。



県営保田窪第一団地での見学会の様子(熊本県住宅課主催)

# アートポリスバスツアー

2024.11.24 Sun.

国内外からのインバウンドの増加につなげるとともに、人材育成として建築を学ぶ学生等に、建築やまちづくりに対する関心を高めたいと、アートポリスツアーを開催した。国内・台湾・韓国からの参加者111名が3台のバスに乗り込み、近年整備されたアートポリスプロジェクトを巡った。

9:00 集合

## 新阿蘇大橋展望所ヨ・ミュール (熊本地震みんなの家活用)

仮設住宅にあった「みんなの家」を利活用したビジター施設の見学や、展望スペースから新阿蘇大橋や長陽大橋を見渡した。



新阿蘇大橋展望所ヨ・ミュール

## 熊本地震震災ミュージアム KIOKU

アートポリスプロジェクトカードを参考に建物の特徴の見学や施設内のシアターでは映像による熊本地震発生直後の被災地の様子や、当時の役場職員の話、創造的復興の歩みなど、震災の展示を見学した。



熊本地震震災ミュージアム KIOKU

12:00 昼食・休憩 草千里

## 南阿蘇鉄道高森駅・交流施設

特徴的な木組みや「とにかく広いプラットフォーム」などを見学。到着したトロッコ列車と記念写真を撮る姿があった。



南阿蘇鉄道高森駅・交流施設

## エバーフィールド木材加工場

施主で施工者のエバーフィールド久原英司社長や設計者の小川次郎氏の説明を聞き、他にはないダイナミックな木造空間を見学した。



エバーフィールド木材加工場

17:00 解散

### 参加者の声



建物のかたちに興味があって参加しました。高森駅は木の使い方がおもしろく、周りの景色と合っていると素敵でした。バスツアーに参加して良かったです。

後藤 芽依さん(小学生)



建築士や建築物についての知識を深めたくて参加しました。訪れたいと思っていた場所を分かりやすい説明付きで巡れたので、有意義な時間を過ごせました。この経験を将来に生かしたいです。

[左から]中村 紗也佳さん、井上 菜保さん(熊本県立大学)



震災ミュージアムは、回廊の形がランドスケープ(風景)と調和していてとても印象的でした。屋根の角度が山の傾斜と一体化しているように見え、建物全体が自然に溶け込んでいるように感じました。

[左から]張 恵淳さん、楊 予宣さん、方 若嘉さん、吳 宛榮さん(台湾 国立成功大学)



アートポリスの建築物をじっくりと眺めたいと思い、韓国から来日しました。熊本には素晴らしい建築家が手掛けた建物が点在しており、とても魅力的な場所ですね。

南 珉植さん(韓国 弘益大学校)

# モク活シンポジウム 「モク活 × ○○」

Check!

詳細はこちらを  
チェック▶



2024.10.19 Sat.

開催場所 | ホテル熊本テルサ 主催 | 熊本県(建築課、林業振興課)、くまもとアートポリス建築展2024実行委員会  
共催 | 熊本県建築士事務所協会

これまで新しい木造建築を創ってきたアートポリスの人材育成事業として、県内の建築関係者と林業関係者が一緒になって、木造建築物の魅力発信する取組みを「モク活」と位置づけている。

県産材を活用し、地域で育て、地域でつくる取組みなど木造建築の一層の整備推進を図ることで、県産材の利活用促進につなげるため、2022年度は「木材活用の可能性や熊本の木材供給に求めるもの」2023年度は「木材のことをもっと知りたい」、3年目となる今年度は、これまでの「モク活」の取組みを踏まえて「モク活×○○」をテーマに開催した。

第1部でプレゼンターによる事例発表、第2部ではプレゼンターにコーディネーターとコメンテーターを加えディスカッションした。会場には建築を学ぶ学生をはじめ、県内外の建築や林業関係者、行政関係者など104名が集まった。

## 第1部 | 事例発表 「モク活×○○」

第1部では、建築や林業関係者などの6名のプレゼンターがそれぞれキーワード「○○」を設定し、「モク活×○○」をテーマに木材利用促進の活動事例を発表した。九州に中層・中大規模木造を広める研究活動や新社屋を鉄骨造から木造化した経緯、過去2回のモク活を経験してからの成果、それぞれの土地に合わせた街の木質化の提案、大径材や大曲材を活用した事例、地域や建築と小国杉についてなどが発表された。



## プレゼンター

「モク活×モクラボ」 ジメント 真道 吉広	「モク活×サスティナブルオフィスの実現」 ソフトシंक 一山 愉	「モク活×続活」 林田直樹建築デザイン事務所 林田 直樹
「モク活×街の木質化」 建築食堂 白橋 祐二	「モク活×プロセスの探求」 南小国町集落支援員 三舛 正順	「モク活×地域と交わる」 小国町森林組合 入交 律歌

## 第2部 | ディスカッション

第2部では、プレゼンターへの質疑を交えながら県産材の定義や木材利用促進協定、持続可能な開発目標(SDGs)、クラウドファンディングによるワークショップの開催、構造の専門家としてのモク活への取り組み、ShopBot(木工用CNCルーター)の活用、山師の現状など多岐にわたり意見が交わされた。

また、これまでの「モク活」を通して建築設計や構造設計、林業関係者とのネットワークが構築されたことにより実現したプロジェクトの一例などが紹介された。



## コーディネーター コメンテーター

ライフジャム 原田 展幸	セルアーキテクト 上野 瑞樹	甲斐構造設計事務所 大塚 智子	堀川建築・造形計画 堀川 恵巳子	熊本県木造設計アドバイザー 池田 元吉	熊本県木材協会連合会 水間 信介	アートポリスアドバイザー 桂 英昭
--------------	----------------	-----------------	------------------	---------------------	------------------	-------------------

## 参加者の声



自分でも取り組みそうな提案がたくさんあって、学びになりました。

宮田 旬さん(熊本工業高校)



大学で建築計画を学んでいます。木材の活用に興味があり参加しました。これからの時代、木材を使うには性質や使い方でなく、育て方から学ぶことが重要だと感じました。

[左から]友廣 佳太さん、飯屋 翔平さん(九州大学大学院)、海江田 理純さん(同大学)、野元 那央さん、成枝 大地さん(同大学大学院)

## 南阿蘇鉄道高森駅・交流施設

2024.7.14 Sun.

開催場所 | 阿蘇郡高森町大字高森1526-3  
説明者 | 太田 浩史(ヌーブ/設計者)  
事業主体 | 高森町



### 参加者の声



インターネットで拝見するより遥かに素晴らしい建築物で高森の町に溶け込んでいますね。熊本らしい創造的復興を感じ、勉強になりました。

楠原 誉章さん(設計事務所)



地形の合理的な発想力に驚いています。修羅組みのやさしげな雰囲気や緑豊かなプラットホームなど、今後の仕事に活かせる多くのヒントを得られたと感じています。

[左から]中尾 亜美さん、竹上 あかりさん、村川 絵美さん(設計事務所)



以前、県が主催する南郷檜の見学会に参加し、優れた性質に魅せられました。今回用いられた南郷檜も美しい木目で素晴らしい。

[左から]中村 稔さん(設計事務所)、中村 太さん(熊本工業高校)

Check!

プロジェクトの詳細はこちらをチェック▶



高森町は、平成28年熊本地震の創造的復興の一環として南阿蘇鉄道高森駅周辺を整備し、8年の歳月を経て2024年7月に完成した。グランドオープンを記念して完成見学会を開催し、県内外の建築関係者・学生ら50名が参加した。

設計した太田浩史氏は「とにかく広いプラットフォーム」をコンセプトに設計された高森駅は、駅舎と交流施設の2つの建物、それらの庇と回廊、塔が芝生広場を囲み、カルデラに沈む夕日を西に眺めることができる。ゆるやかな地形のため、プラットフォームと周辺市街地が地続きであるという地形的条件、車内改札のため改札口がなく、誰もがプラットフォームに入って来られる南阿蘇鉄道の運行方法により、観光客が阿蘇のカルデラの風景を眺めることができ、夕陽と鉄道を楽しむ駅が実現した。また、熊本地震で車中泊という避難方法が目撃されたことを踏まえ、交流施設を車中泊の支援拠点や芝生広場を運動場として活用できるよう設計した。と熱心に説明された。

### 設計者コメント



[左から] 竹内工務店 岩元 政貴氏、ヌーブ 太田 浩史氏、元所員 石島 健史氏

アートポリスだからこそ、グランドデザインで駅建築が成し得た。新しい玄関口をそれぞれの過ごし方で楽しんでほしい。(太田氏) 僕らが描いた駅舎が地元で溶け込み、コミュニティの場になっていくのを期待している。(石島氏)

Check!

プロジェクトの詳細はこちらをチェック▶



## 高橋酒造田野蒸溜所・交流施設

2025.1.24 Fri.

開催場所 | 人吉市田野町3316-4  
説明者 | 平瀬祐子(yHa architects/設計者)  
事業主体 | 高橋酒造株式会社



高橋酒造の協力により、地元で建築を学ぶ球磨工業高校2年生が現場を見学した。

設計者の平瀬祐子氏(yHa architects)は赤い屋根という「物質的記憶」、小学校という「郷愁的記憶」、田野高原の風景という「地域的記憶」の「敷地が持つ3つの記憶を継承する建築」をコンセプトに設計したと話した。

平瀬氏が既存の校舎が木造、増築部分は鉄骨造であることから構造上分離して計画した点について話すと、施工者の速永工務店の黒木浩行氏は、工事の際には木造校舎の中に小型クレーンを入れて鉄骨を建てたなど施工方法について説明した。

参加した生徒は、廃校となった小学校がリノベーションにより生まれ変わった建物を熱心に見学した。

## 芦北町地域優良賃貸住宅友田団地

2024.12.14 Sat.

開催場所 | 葦北郡芦北町湯浦91-1  
説明者 | 片山和俊(ディック設計室/設計者)  
龍口元哉(龍口元哉建築設計事務所/設計者)  
事業主体 | 芦北町



### 参加者の声



図面上ではわからない地域への配慮、災害対策等お話を聞いてよかった。入居に関して県外からのお問い合わせもあると聞き、よい建物が地域の発展にもつながると思いました。

脇本 裕子さん(会社員)



初めてアートポリスの完成見学会に参加しました。県産木材を使用し、災害、子育てに対応した住まいとして次世代に繋がる建築物になると感じました。個人的には階段の吹抜け部分が住居内の一体感を創り出しており、好きなポイントです。

岩下 勝信さん(建設会社)



芦北町湯浦地区に計画した「芦北町地域優良賃貸住宅友田団地」の完成を記念して見学会を開催した。見学会には、県内外から建築関係者、学生、行政など44名が参加し、参加者に向けて設計者の片山和俊氏、龍口元哉氏は、「芦北町の自然と共生する安全・安心の「新しいあたりまえ」を湯浦地域につくる」をテーマに、「子育て世代の住みやすい環境をつくる」、「災害から暮らしを守る住環境をつくる」、「芦北町の持ち味を生かした住環境をつくる」の3つをコンセプトに設計したと話した。

参加者は、「薪ストーブ」や、「足湯」など、他に類を見ない特色のある公共住宅を見学した。

### 2024.12.19 Thu. 落成式を開催

落成式には関係者や入居者など約60人が出席し、芦北町竹崎町長は「子育て世代の方が安心して産み育てられる住環境の充実と良質な住宅を提供する」と挨拶した。



### 参加した高校生の声



昔から地域で親しまれていた場所が、蒸溜所として新たに利用される取り組みを始めて知ることができた。皆が残したい記憶や場所を残しつつリノベーションされていてすごいと思った。

久保山 大夢さん



元々あった建物を生かしながらつくり上げていく建物を初めて見た。構造上、元あるもの(既存の構造体)に触れないようにつくってあり、すごいと思った。

大池 暁士さん



小学校の良さや新しいデザインを生かした構造は、設計者の想いや地域の人の想いが伝わってきてよかったなと思った。将来、お酒が飲めるようになったらこの場所で試飲してみたい。

田上 乙葉さん

# 相良村川辺川魅力創造事業・交流拠点施設設計 公募型プロポーザル 公開審査

2024.9.29 Sun.

開催場所 | 相良村総合体育館

相良村では、令和2年7月豪雨災害を受け策定した「相良村復興計画」及び「相良村復興むらづくり計画」に基づき、川辺川の魅力を村内外に発信し、川辺川を中心とした周辺環境・地域資源を活かした地域活性化・関係交流人口の増加につなげるため、「川辺川魅力創造事業基本計画」を令和6年4月に策定した。豪雨からの復興を後押しする地域活性化事業として川辺川のみならず相良村の魅力を発信し、村内外の人々が交流できる拠点施設を整備することとしている。

村民が地域のシンボルとして誇れる建物、かつ相良村廻り地区の村民が日ごろから気軽に使える身近な施設として、また交流人口を増やす施設とするため、くまもとアートポリス事業に参加した。設計者選定は公募型プロポーザルとし、全国から44件の応募があり、令和6年9月29日に相良村総合体育館において公開審査を開催した。約100名が見守る中、『本岡伊藤・赤熊・CAMPUS設計共同体』が最優秀賞に選ばれた。設計は2025年夏頃まで続き、2026年の供用開始を目指す。



**Check!**  
プロジェクトの詳細はこちらをチェック▶

## プロポーザルの概要

- 2024年7月4日 [応募要項発表](#)
- 7月22日 [現地見学会](#)
- 8月28日 [応募締切](#)
- 9月3日 [一次審査](#)
- 9月29日 [二次\(公開審査\)](#)

## 事業概要

計画地 / 球磨郡相良村川辺廻地区(廻り観音周辺)

事業主体 / 相良村

建物用途 / 交流拠点施設

規模・構造 / 400㎡、木造

## 最優秀賞 Pier

川辺川がより身近に感じられ、交流人口の醸成を促す交流拠点施設

**本岡伊藤・赤熊・CAMPUS設計共同体** 大阪府

川辺川に対して直角方向の配置は、他の提案と大きく異なる。これは、計画対象敷地にとどまらない積極的な提案。この総合的な考え方が、川辺川でのアクティビティを豊かにするのではないかと伊東豊雄コミッショナーは評した。



[左から]東郷拓真氏、赤熊宏紀氏、伊藤祐紀氏、本岡一秀氏、松岡篤氏

### 受賞コメント

県産材等を活用し、構造安全性を確保した  
在来軸組工法と、エネルギー消費量を削減する  
ヤナバ天井、スタレ屋根、そして交流人口  
を増加させる外構計画が特徴です。

## 審査員



- 審査員長 伊東 豊雄  
建築家、アートポリスコミッショナー
- 吉松 啓一  
相良村長
- 田中 尚人  
相良村魅力創造会議委員長、熊本大学大学院准教授
- 桂 英昭  
建築家、アートポリスアドバイザー
- 末廣 香織  
建築家、アートポリスアドバイザー、九州大学教授
- 曾我部 昌史  
建築家、アートポリスアドバイザー、神奈川大学教授

## 参加者の声



[左から]坂本 達哉さん、長野 聖二さん(設計事務所)

プロポーザルに応募したことから、選定された提案が気になったため聞きにきました。今回のような公開プロポーザルは貴重で後学になります。



地域住民 赤池 正也さん(建築会社)

地元へ何が出来るのかを知るために来ました。地域が活性化して多くの人に足を運んでもらえる場所が生まれることを今から楽しみにしています。



竹中 健悟さん(熊本大学大学院)

環境と調和し、川辺川の魅力を伝える建築設計を自分なりに考えながら傍聴したので、大変勉強になりました。

## 優秀賞 相良村の山並み・川並みの風景をつなぐ橋

yHa architects 福岡県



## 佳作 廻りのルーフスケープ

永瀬・加藤・山内・丹部設計共同体 神奈川県



## 佳作 循環の集落

生物建築舎・figraph設計共同体 群馬県



## 佳作 SAGARA LEAF HOUSE

ヨシモトアソシエイツ 東京都



## プロジェクト進行中!

2025年1月16日に相良村総合体育館にて「交流・多目的・棧橋テラス」の各スペースに期待する要望や使い方をテーマに住民参加型のワークショップが開催された。地域住民約20名が参加して、設計者と意見交換した。



## 第28回 くまもとアートポリス推進賞

2024年度の推進賞には29件の応募があり、平成28年熊本地震からの創造的復興が契機となった施設など多彩な7作品が選ばれた。2025年1月23日に表彰式を開催し、亀崎副知事から表彰状が受賞者へ渡された。

詳細はこちら



### 推進賞



東海大学阿蘇くまもと臨空キャンパス

©株式会社川澄・小林研二写真事務所  
中村 隆/長谷川 健太



箱の家163 (Y邸)

©YASHIRO PHOTO OFFICE



立野交流施設 (立野駅)

### 推進賞選賞



熊本保健科学大学  
レストラン ピリア

©上田新一郎/エスエス



酒蔵の片隅で角打ち

©石井紀久



垂玉温泉 瀧日和

©平林克己



天然記念物布田川断層帯  
(谷川地区) 見学施設

## アートポリスプロジェクトが表彰されました

- 熊本地震震災ミュージアム 体験・展示施設 (KIOKU)
  - ・ JIA日本建築大賞2024
  - ・ 令和6年度日事連建築賞優秀賞(一般建築部門)
  - ・ ウッドデザイン賞2024奨励賞(ハートフルデザイン部門)
- 南阿蘇鉄道高森駅・交流施設
  - ・ ウッドデザイン賞2024最優秀賞(環境大臣賞)
- 立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ
  - ・ 2024年日本建築学会作品選集新人賞

発行

### くまもとアートポリス事務局

熊本県土木部建築住宅局建築課内

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1  
TEL.096-333-2537 FAX.096-384-9820  
E-mail kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp



ホームページ



YouTube

くまもと  
アートポリス

KUMAMOTO  
ARTPOLIS

発行者:熊本県  
所属:建築課  
発行年度:令和6年度  
(2024年度)